

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達さぽーとセンターるぼろ（ 児童発達支援センター ）		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 15日 ～ 令和7年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38 (回答者数)	29
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 15日 ～ 令和7年 9月 19日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・施設内には認定こども園を併設しており、施設全体でインクルーシブの推進に取り組んでいる。一日の療育を通し、園の流れや生活場면을想定しながら、曜日、グループメンバーの固定を行い、生活自立、対人関係・コミュニケーション力の向上を図っている。	・一日を通した生活場面での困り感を把握して園と連携出来るよう努めている。 ・園の遊びや活動に入りやすいよう、園で行う前に疑似体験するなど活動に取り入れ「知っている」「分かっている」安心感や意欲に繋げている。 ・送迎を保護者が行うことで直接声を聞き、表情や状況を確認することで利用児だけでなく保護者にも寄り添う支援を行っている。	・インフォーマルアセスメントが主となっている。フォーマルアセスメントの実施のための職員の知識やスキルアップを行う。 アセスメントをする機会を設けられるよう準備している（N-Cプログラム等） ・専門職の評価が必要な児については療育の中で確認する機会を設けることも検討する。 ・相談事業者との連携も密に行うことで保護者が孤立しない支援、利用児と保護者が中心である支援を提供していく。
2	・施設内に作業療法士、言語聴覚士がいることで、感覚面、コミュニケーション、社会性など専門的な視点を取り入れて小集団活動を提供している。また、保護者のニーズに対しても協力して対応している。	・保護者の悩みの内容により、専門的視点からのアドバイスの提供を行っている。 ・言語面や作業面を意識し、療法士と連携しながら、発達状況や課題を共有することで小集団ならではの楽しさの中で育める力や課題克服にアプローチすることが出来る。 ・外部講師による療育（音楽療法）。 ・医師による巡回、利用児・保護者への対応について、助言を受けている。 ・保護者のレスパイト、児の生活リズム確保の為にスポット利用の運用をしている。	・医療機関との連携ができるように働きかけていく。
3	・放課後デイサービスと協力しながら、年間を通じて保護者向け講座、交流会を実施している。	・年度初めには保護者アンケートを行い、ニーズに合わせた講師・講座の場と機会を提供している。 ・療法士、栄養士による専門性を活かした保護者向け講座、交流会を定期的に行っている。 ・先輩ママによる経験からの講座や交流会も行い、身近な相談者として次の世代にも繋がっている。 ・委託医による講座、相談会を実施し、医療からの正確な情報や助言を聞く機会を設けている。	・今後も保護者のニーズに耳を傾けていく。また、センターとして子育てに関する講座や情報提供、相談の場として地域に広げていく必要がある。
4	・就学に繋がる支援として小集団療育から保育所等訪問支援や町による個別療育への療育の流れを提供している。	・保護者や園、相談支援事業所、保育所等訪問支援員と連携を図り、一人ひとりに対する就学を見越した療育を話し合っている。 ・センターから町の会議にも出席し、太子町全体の支援が必要な児童を把握するとともに、地域や課題に応じ対象児に必要な療育を提案できるようにしている。	今後も、町や学校などとの連携強化を図り、一人ひとりに合わせた必要な支援を提供していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・療育終了後のフォロー体制が整っていない。	・終了後の相談を受けるための仕組みについて、十分な検討が行われていない。	・人員確保とフォロー内容を明確にしていく。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や職員研修等スキルアップの機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員配置基準は満たしているが、短時間勤務の職員が多いため療育終了後に時間を取ることが難しく、全員が参加する会議や研修受講の時間を取ることが難しい。 ・町の受託事業に基づく会議や連携のため年間を通して職員の派遣が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターとしての役割や支援力の向上に向けて人員を充実させていきたい。 ・研修年間計画を作成し、施設全体で協力し合える体制を整える。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・グループや活動、子どもの特性に合わせた支援者の人数が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配置基準は満たしているが、幅広い活動を提供していくためには人員体制にゆとりがない状況である。採用活動を継続しているが、社会的な人手不足もあり採用に至ってない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合わせてより丁寧な支援を行っていくために、ゆとりある人員確保が必要。支援者によって関わり方に差が生じることのないよう人員確保に努めるとともに、会議や検討会に全員が参加できるように情報共有の仕方を工夫していきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎サービスを提供できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に必要となる職員の確保が出来ておらず、送迎の体制が整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎サービスの検討と、保護者との連携の機会が減らないようバランスを考える必要がある。